

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

～ 地域を支えるボランティアの輪をひろげよう ～

平成27年7月4日（土）

地域を支えるボランティアの輪をひろげよう

ほっとけないから
ボランティア！

そういうことなら
できそうだ！

人のつながりって
イイね！



入場無料

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

合同開催：すみだボランティアセンター開設30周年記念事業

平成27年7月4日（土）

13:00～16:30 開場12:00

すみだリバーサイドホール
墨田区吾妻橋1-23-20

参加申し込み 所属・氏名・参加希望項目を裏面の参加申込書あるいは電話にて7月1日（水）までに下記申し込み先へ
※準備の都合上あらかじめお申し込みください。当日参加の方も大歓迎

- 墨田区福祉保健部厚生課
☎03-5608-1163 FAX03-5608-6403
- すみだボランティアセンター
☎03-3612-2940 FAX03-3612-2944

すみだボランティアセンター
開設30周年記念式典

講演会

「地域福祉を創る
～自分らしく暮らすために～」

町永 俊雄 氏
福祉ジャーナリスト
（元NHK福祉ネットワークキャスター）



地域活動事例紹介

さんあすサロン（拠点型ふれあいサロン）

フォーラムディスカッション

「あったらうれしい地域の取組」～みんなで話そう～

【主催】 ● すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会 ● 墨田区 ● 社会福祉法人墨田区社会福祉協議会

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

合同開催：すみだボランティアセンター開設30周年記念事業

プログラム

12:00 開場 (感謝状被贈呈者のパネル展示あり)
オープニング

13:00

すみだボランティアセンター開設30周年記念式典

昭和60年の開設以来、すみだボランティアセンターはボランティアをはじめとする地域の皆様に支えられ、30周年を迎えました。30年の感謝を込めて、感謝状を贈呈します。

14:00

講演会

「地域福祉を創る～自分らしく暮らすために～」

●町永 俊雄 氏 福祉ジャーナリスト(元NHK福祉ネットワークキャスター).....
1971年NHK入局。「おはようジャーナル」「ETV特集」「NHKスペシャル」などのキャスターとして、経済、暮らし、教育、福祉などの情報番組を担当。2004年から「福祉ネットワーク」キャスターとして、障がい、医療、うつ、認知症、家庭など、現代の福祉をテーマとし、とりわけ東日本大震災を福祉の視点から集中してとりあげました。現在は福祉ジャーナリスト、フリーキャスターとして、高齢社会や共生型地域福祉のあり方をめぐり、番組や執筆の他、各地でシンポジウムや講演活動をされています。
近著 中央法規出版「ワニの腕立て伏せ」



15:00

地域活動事例紹介 さんあずサロン(拠点型ふれあいサロン)



第三若婦小学校を活動拠点とし、拠点型ふれあいサロンとして平成25年より実施。
これから地域と関わっていきたい方にも参加しやすいこと、小学校で実施することにより多世代交流が行われるなどから、世代を超えた人のつながりが形成されています。

フォーラムディスカッション

「あったらうれしい地域の取組」～みんなで話そう～



地域では高齢者の独居や老老介護、障害者を初めとする要援護者をいかに見守り支えるか、また、子育て世代の孤立化や町会・自治会への加入率低下など、様々な課題が埋もれています。あなたの周りで気になること(課題)は何ですか?そんな“気になること”の解決の糸口となる「あったらうれしい地域の取組」はなんなのでしょうか?
小さいテーブルを囲んで少人数で話し合いませんか。

16:30 エンディング

参加申込書

- 以下の内容にご記入いただき、7月1日までにFAXまたはEメールでお申し込みください。
- 当日参加も受け付けます。

名前

所属団体名等(個人の方は記入しなくて結構です)

参加希望の項目に
○をつけてください

- 1 すみだボランティアセンター 開設30周年記念式典 2 講演会「地域福祉を創る～自分らしく暮らすために～」 3 事例紹介「さんあずサロン」フォーラムディスカッション

一時保育(1歳～就学前まで)及び手話通訳を希望する場合は6月26日までに申し込みください。

- 1 一時保育希望(お子さんの年齢 才) 2 手話通訳希望

●墨田区福祉保健部厚生課 FAX: 03-5608-6403 Eメール: KOUSEI@city.sumida.lg.jp ☎03-5608-1163
●すみだボランティアセンター FAX: 03-3612-2944 Eメール: vc@sumida-shakyo.or.jp ☎03-3612-2940
※どちらに申し込んでいただいても構いません。

第5回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムが7月4日に開催されました。

■フォーラム概要

1 趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティアグループ活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかける。

今年度は、すみだボランティアセンター開設30周年記念事業と合同開催とした。

2 日時

平成27年7月4日（土）13時から16時30分まで

3 場所

すみだリバーサイドホール

4 内容

- (1) すみだボランティアセンター開設30周年記念式典
- (2) 講演会「地域福祉を創る～自分らしく暮らすために～」
- (3) 地域活動事例紹介「さんあずサロン（拠点型ふれあいサロン）」
フォーラムディスカッション

「あったらうれしい地域の取組」～みんなで話そう～

5 平成27年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム推進団体

墨田区、墨田区社会福祉協議会、墨田区民生委員・児童委員協議会、墨田区地域福祉計画推進協議会、墨田区ボランティアサークル連絡会・東京都城東地区地域福祉施設協議会

6 来場者数

約400名（関係者含む）



■ 司会者紹介

今年度は、実行委員である
山田英委員が総合司会者でした。



■ オープニング

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの企画・運営のために設置された実行委員会を代表して、鎌形由美子実行委員会委員長から開催の挨拶がありました。



■ すみだボランティアセンター30周年記念式典

昭和60年の開設以来、すみだボランティアセンターはボランティアをはじめとする地域の皆様に支えられ、30周年を迎えました。

西原文隆墨田区社会福祉協議会会長から、ご尽力いただいたみなさんに30年の感謝を込めて、感謝状を贈呈しました。



感謝状贈呈式の様子



山本亨墨田区長からすみだボランティアセンター30周年記念式典の来賓祝辞及びすみだ地域福祉・ボランティアフォーラム主催者あいさつがありました。



樋口敏郎墨田区議会議長からすみだボランティアセンター30周年記念式典の来賓祝辞がありました。



■講演会

「地域福祉を創る～自分らしく暮らすために～」



講師：町永 俊雄 氏

福祉ジャーナリスト
(元NHK福祉ネットワークキャスター)

「今、自分らしく暮らすことが一番むずかしくなっている」のキーワードから始まった町永さんの講演でした。

これからの地域福祉のあり方、方向性を、“世代間交流—住民参加”の取組例や東日本大震災で被災した中学生の言葉などの映像を交えて、わかりやすくお話していただきました。最後の「ひとりの百歩より、百人の一步」という言葉が印象的でした。

【概要】

- ・ライフスタイルが変わってきている日本では、新たな社会の枠組みを創らなくてはならない。今までは国からの一律の施策だったが、これからは地域の特性に応じて作り上げることが大切である→「地域包括ケアシステム」



- ・支えられるだけでなく、生産的な高齢者になる。
支えられる人が支える人にまわる。
- ・自殺、うつ、認知症、ホームレス、不登校・・・など、問題となっていることはすべてつながっている。
自分らしく暮らすことを困難にしているのは、「孤立、無関心、排除」である。これと反対のこと「想像、関心、共感」

を心がける。これは誰もが子どもの頃、親から受けたもの。「想像、関心、共感」が行きかう社会が共生社会である。

- ・今までは公助（税金）自助（自己負担）だけであったが、これからはこれに互助（ボランティア、市民活動など）と共助（介護保険など）を組み合わせしていく。
- ・日本は経済成長とともに地域の力はあまり意味がないと思ってきてしまった。無くなって初めて地域の力、人のつながりが大切であったということに気づいた。無くなったものを取り戻すことはたいへんなことである。取り戻すことができるであろうか！



地域活動事例紹介

さんあずサロン（拠点型ふれあいサロン）

発表者 民生委員・児童委員 皆川 仁 氏

ナビゲーター 社会福祉法人墨田区社会福祉協議会 大倉 祐子 氏

ナビゲーターからの質問形式で、「さんあずサロン」の立上げから今後の希望までを紹介していただきました。



Q1 皆川さんご自身がボランティアを始めたきっかけは？

約 20 年前、子どもが第三吾婦小学校に通っているときに PTA 活動を 6 年間やっていた。

やめる 1 年前に当時の校長先生から依頼があり、読み聞かせをしていたが、毎週学校へ行っているうちに少しずつ子どものことが見えてくるようになった。

6 年前に「いきいきスクール」をやるようになって、毎日行くようになった。

Q2 「さんあずサロン」立上げの経緯は？

社会福祉協議会職員から「高齢者の集まれる場所をさがしている」と言われ学校に聞き、校長先生から OK をもらった。土日のつもりだったが、校長先生が「もったいないから平日にやってほしい」と言ってくれた。

学校のほうからカリキュラムに組み込んでくれて、毎月 1 回実施することになった。

子どもが俳句をつくって、高齢者が採点する、朝顔の種を一緒にまく、ランチルームで一緒に食事をするなど、いろいろなことをやっている。

サロンをつくることができたのは、①校長先生の理解があった②独立した部屋があった③橋わたしをする者がいた。という 3 点がそろったからだと思っている。

Q3 「さんあずサロン」をやってみて地域の方や子どもたちに変化はあったか。

高齢者は元気になった。病気をして歩くのが不自由になった方が、最初はいいやいや来ていたようだが、毎回杖をついて歩いて来るようになり、楽しみにしているようになった。子どもが近づくのを嫌がっていた人が自分から手招きするようになった。子どもがたくさん来て帰った後「うるさかったね～」と皆で言っているが、顔はとてもうれしそうである。構えていたのが自然体になったような気がする。

子どもたちはトラブルが少なくなっているし、高学年が低学年のめんどうをよくみるようになった。

Q4 今後の希望は？

20 年後、今の小学生が自分を忘れないでいてくれて、めんどうをみてくれるとうれしい。

自分の好きなことで、地域の力になれることを皆さんに迷惑をかけない程度にやって行きたいと思っている。



■フォーラムディスカッション

「あったらうれしい地域の取組」～みんなで話そう～

参加者131名

地域では高齢者の独居や老老介護、障害者を初めとする要援護者をいかに見守り支えるか、また、子育て世代の孤立化や町会・自治会への加入率低下など、様々な課題が埋もれています。

今回は、あなたの周りの“気になること”の解決の糸口となる「あったらうれしい地域の取組」について、少人数で話し合いました。

【内容】

ランダムに席についた少人数のグループで、まず、地域の現状と課題について話し合いました。

その後、グループで課題をひとつにしぼり、その課題に対する解決策を探りました。



このコーナーの司会は実行委員の古市さんでした。



参加者のみなさんから活発な意見が出て、時間が足りなかったという声もありました。

現状・課題

- 町会がまとまっており、近所の様子を知っている地区に住んでいて、町会全体で見守る体制づくりができています。高齢者や障害児者の災害時対応が課題。
- 核家族化で、周辺住民との交流が少ない。若い世代が離れていき、高齢者が残っている。
- 介護保険で要支援の方を地域で支えようという動きがある。誰が音頭を取ってまとめるのか。関係者の体制づくりが課題だが、各分野のつながりが弱い。地域の側から声を上げていくことが必要。
- 資源はあるが、情報共有できる場がない。それぞれが個別で課題解決しようと頑張っている。
- 利用できる資源は、近場にあってほしい。(サロンなど)
- ひとり暮らしの方が、人とのつながりを持てる場が必要。
- 世代間の交流の場、生きがいのための交流の場がもっとほしい。
- 洗濯物が干しっぱなしなど、異変に気付くことはあるが、日頃からのつながりがないと、関わりにくい。
- 自分で動くことが困難な方が、災害時に助けを呼べるか、不安。



このグループの課題

各分野・機関の垣根を越えてつながる必要がある。
まずは近所のつながりを持っていくこと、地域の課題への興味を持っていくことが求められる。



現状・課題

- ・介護施設に入りたくても入れない人が多い。順番待ちが多い。不足している。
- ・入院していても、長期になると転院するように勧められる。今後の行きつく先がどこなのか、不安である。
- ・独居高齢者が増加したと感じる。
見守りが大事だし、なるべく声をかけていきたいが、人数が多くて手がまわらない。
- ・公園でボール遊びが禁止。うるさいと苦情が行く。子どもの遊び場はどこ？
- ・高齢者は高齢者の場所、子どもは子どもの場所、と分けられがち。さんあずのように交流できると素晴らしいが、子どもの保護者はどう感じているのか、知りたい。
- ・無料健康診査の受診率が低いことと、寿命が短いこととは、関係があるのか。塩分摂取率も高いと思う。
- ・学校だけだと学力が伸びない。学力が低い。



このグループの課題

高齢者が施設に入れなくても暮らせるよう、サービスの充実を図る。



解決策の話し合い

- ・親（高齢者）と子が近くに住み、互いに頼れる関係が作ればよい。
- ・構えず、自分が好きなことに自由に参加できる場があればいい。
- ・高齢者が子供を守るようになるといい。
- ・定年後の地域デビュー → 町会に参加。／自分に何ができるか、考えてみる／ボランティア登録（ボランティアセンターがどう導くか）
- ・自宅を開放し、サロンを開いている。1回 200 円で、社会福祉協議会に寄付している。
声をかけて、高齢者に集まってもらい、孤立を防ぐ仕組み。
- ・学校が老人会を巻き込んで、子どもと高齢者をつなげるのもいい。保育園児と高齢者の給食会もいい。
- ・「場」の名称は、自発的にやってみたくなるようなものに。「わくわくファーム」ではどうか。
- ・長続きには「4ベル」が必要。「しゃべる」「まなべる」「たべる」「トラベル」



解決策

世代を超えて集まる「すみだわくわくファーム」を作り、「4ベル運動」を意識しながら、つながりを作っていく。

現状・課題

- 元気な高齢者が増えているので、その人たちがグループになって、ボランティアとして活動できればいい。
- 着付けのボランティアをしたいが、お節介になる場合とのバランスがむずかしい。
高齢者が学校へ行って子どもたちとふれあえる機会があればいい。
- 高齢者は学校の手伝いがしたくても入っていくのがむずかしい。教師の負担になっても悪いと思ってしまう。
- 傾聴のスキルをどのようにして広げていけるか。
- 危害は加えないが徘徊する精神障害の方がいる。大きい声を出していたりすると自分でも怖いと思ってしまうこともある。子どもがおびえたりするので、どううまくやっていこうかジレンマがある。
- 地域に精神障害の方がたくさんいることが最近分かった。みんなで話し合うと何とかなることもある。
- 会議が実態と結びつかないことが多かったが、やっと一歩踏み出していく時代になった。
他人のことも自分のことと思って会議をやらないといけなと思う。
- 福祉は自分のことにならないと本気にならない人が多い。
- 行政と地域とが話し合ってきた施設はとても良いものになっている。話し合いは大切。
- サラリーマンが地域に入っていくのはたいへん。町会に入っていくのは勇気がいる。
きっかけとなってくれる人がいると良い。
- 町会是新参者が意見を言いにくい雰囲気がある。
- 地域の集まりは現実的に来る人が決まっている。



このグループの課題

- 学校や地域で何かしたいと思っても入っていくのがむずかしい。
- 協力してくれる人、場所など地域での活動の仕方がむずかしい。



解決策の話し合い

- みんなで少しずつ知恵を出し合って、地域の問題を解決できると良い。



解決策

- 一歩を踏み出さないと何もできない。一歩を踏み出すことが大切。

グループ 4 ファシリテーター1 記録1 参加者 7

現状・課題

- ・学童の問題を考えたい。
- ・一人っ子が多く、コミュニケーションが希薄なので、大人の声掛けが必要。
- ・子どもの遊び場が少なく、居場所がない。
大人の作った枠から抜け出せず、大人の心配ごと巻き込まれている。
- ・世代間交流が必要。デイサービスも歌などのレクリエーションが多く、聴覚障害の高齢者が孤立している。
- ・民生委員への情報は、高齢者に比べて子どものものが少ない。一人暮らしの高齢者への訪問は浸透しているが、障害者へも当たり前にしたい。虐待が疑われる家庭は拒否があってむずかしい。サロンがないので、一般の高齢者への訪問もきっかけが無くむずかしい。・町会員の減少、町会費に差があるなど、町会の問題を指摘する部門はないのか。
- ・外国人日本語教室の会場使用料が問題になっている。
- ・地域の問題は地域で解決しなくてはならない。
- ・障害者は自助努力で何とかしている場合が多く、地域には見えにくい。
- ・高齢者は引きこもりが多く、居場所づくりが必要。



このグループの課題

- ・「居場所がない」という問題。

必要なのは高齢者だけか。子どもだけの居場所か。それとも世代間交流の居場所か。



解決策の話し合い

- ・児童館は、子どもの居場所になっているが、高齢者も来やすくして世代間交流の場所にしていきたい。
- ・子どもは大人から声をかけられるとうれしい。最初は警戒する子どもも、3回あいさつすれば、返すようになる。粘り強い声かけが必要。
- ・子ども・若者が悩みを話せたり、高齢者の経験を聞けたりする場があるといいと思う。
- ・行政が責任を問われるのを恐れるあまり、遊具は撤去、ボールは禁止、となった。
過剰な責任感が逆に子どもを追い込んでいる。



解決策

- ・世代間交流のできるサロンをつくる。
- ・区に過剰な責任を負わせるのをやめ、区民（地域）が役割と責任をある程度は担うようにする。

現状・課題

- ・ふれあいサロンを作って、様々な立場からの意見を取り入れたい。
お年寄りだけになりがち、子ども、若者も取り込みたい。世代間のタテの交流があるのが理想的。
既存の老人会・婦人部などとのすみわけ、関係性が難しい。互いに警戒してしまうこともある。
- ・点字サークルも、大半が高齢者。幅広い世代の参加がないと、将来的に不安。
興味のある人がどこにいるのかわからない。
- ・コミセンでは、多世代の交流の場を設けている。それが高齢者の集まりとつながればいい。
(ガバンスリーダーの試験的な取り組みで、火曜日の夜に集まっている)
- ・ソフトも大事だが、ハードも重要。ふじのきさん家のような、身近に集まれる場所が必要。
- ・サロンには、女性の参加が多い。男性も参加してもらうようにするのが課題。



このグループの課題

サロン等における多世代の交流について



解決策の話し合い

- ・世代間の交流の場について、情報を提供していきたい。
- ・交流の場の中で、人材と課題のマッチングができるようにする。



現状・課題

- ・高齢の親が子どものいる墨田に転入したが、息子夫婦は仕事で日中不在、近所に知り合いもおらず閉じこもっている。
- ・子どものことで悩んでいても同じくらいのママたちには相談できない。
でも、専門機関に行くほどでもない（世代の違う人に話を聞いてもらえれば気持ちが楽になりそうなのに）
- ・今まで仕事ばかりで地域や町会と関わってこなかった。
昔から住んでいる人とどう関わればよいかわからない。（子どもがいない場合、何をきっかけにすれば?）
- ・災害時など心配なこともあり、なるべく地域と関わるようにしている。
- ・向島に住んでいる子育て中のママだが、結構、まちで声をかけてもらえてありがたい。
回覧板とかがまわってきて、いろいろ地域のことを知るきっかけになっている。
- ・集合住宅に住んでいるが、周りとは知り合うきっかけが少ない。意識して関わるようにしないと…
- ・町会の加入率も落ちている。自分は町会長だが、地域の人からいろいろな相談が舞い込む。
その悩み事を聞くのも役員の仕事だが、けっこうキツイ。
- ・問題のある人とどのように関わっていけばいいのか。
- ・昔から墨田に住んでいた人とどのように関わればいいのか、若い世代も悩んでいる。



このグループの課題

身近に気軽に相談できる場（機会）が無い
かわりを持ちたい！ でも持てない！！



解決策の話し合い

- ・気軽に相談するには知り合うことが大切。まずは知り合う場をつくろう！
- ・あいさつって大事。道や公園であいさつとかしていこう。
- ・だれでも気軽に集まると良い。
- ・（地方からきた高齢者のために）県人会みたいなことをやったどうか。
- ・若い世代と高齢者が交流する場があればよい。



解決策

誰もが集えてお茶を飲んだり、相談に来たりできる所を作ったらいい！
そんな場所にたまに専門職員がいるといい。ふじのきさん家みたいなものを増やす。
世代を超えた交流をするには→児童館などと連携し、親子で楽しめるプログラムを実施する。

現状・課題

- ・ホームレス（住所不定）の被保護者の担当が、吾妻橋1（区役所の住所）の民生委員だけになっている。実際は様々な地域（の施設）に住んでいるが、その地域の民生委員に情報が行かず、関われないので、交流の機会を作ることができない。
- ・月に1回の食事会をしている。町会会館を利用。30人程度が来て、調理側は10人くらい。町会会館は、町会の好意で無料で利用している。会費250円と、社協、町会からの補助でスムーズに運営できている。
- ・見守りネットワークをつくり、年4回、全世帯を訪問している。ボランティアを含め、20人くらいで組織している。
- ・ふれあいサロンをつくった。町会会館や学校が少し離れているので、荒川緑地フィールドハウスを利用している。
- ・認知症、引きこもりなどで相談に行けない人へのアプローチが必要。集まりに無理やり連れてくることはできないので、緩やかに見守っている。
- ・町会の会場が狭い、階段があるなど、利用しにくいことがあるが、民間の施設は利用料が高い。減免や補助の制度について、情報交換が必要。



このグループの課題

ふれあいサロン、食事会などのための場所の確保



解決策の話し合い

- ・児童館を開放してもらえるかもしれない。
- ・町会によっては、場所がないこともある。事例（さんあずサロン）のような活動ができるとよい。
- ・活動の際の施設利用料を補助してほしい。
- ・児童館の館長が、高齢世代を呼び込もうという意識を持っていると、関わりやすい。区や社会福祉協議会にも要望していくことが大事。

現状・課題

- 25年前と比べ、町がかわってしまい、さびしい。
- 昔ながらの、通りがかりに気楽に立ち話できるような場があればいい。
- 隣近所で声をかけてもあいさつが返ってこない。
- 町会加入率が低い。
- 地域とのつながりが薄くなっている。地域への帰属意識を高めないと。
- 食育イベントで、かかわりを持つきっかけができた。敷居の低い楽しめるイベントがいい。
- 町会は自営業が担ってきた。近年はサラリーマンが増えている。
- やらされる感があって、子ども会にも入らなくなっている。
- お祭りだけ来て、町会には加入しない。
- 集会所まで行けない人が、立ち寄れる場、交流できる場がほしい。「縁台」のようなもの。空き店舗を活用して。
- 空き家対策や水害対策が必要。
- サロンや小地域福祉活動域だけでは、全ての人をカバーできない。来る人が固定化する。
- 活動のための集会所を要望しても、ずっと続けられるのか、など、区の姿勢も厳しい。
- 区全体をまとめるのは、範囲が広すぎて難しい。



このグループの課題

地域での新・旧住民の交流（つきあい）がなくなってきている。



解決策の話し合い

- 参加しやすいイベントで、地域の交流を図る。（祭礼、バルウォークなど、楽しめるもの）
 - 無視されても声をかけ続ける。地域に出てこられない人に、街中で声をかける。
 - 町会の枠を超えた別組織をつくり、悪いイメージを壊す。
 - 災害時に個人宅の3～4階に避難できるよう、個人と町会で協定を結ぶ。
- その話し合いのプロセスで、交流が深まることも期待。



解決策

- 挨拶の重視（声をかけ続けることで地域とつながる意識を持つ）
- 開かれた町会（若くても参加できる、「活動させてもらえる」町会）
- 地域を結ぶ（孤立させないために）

現状・課題

- 運転ボランティアとして、高齢者、障害者の病院などへの送り迎えをしている。
あまり知られていない。人手不足、技術不足の問題がある。
- ボランティアをやりたいと手を挙げる人に、丁寧なマッチングとフォローが必要。
- ハート・ライン21、ミニサポートなども、周知が足りないのか、中身がよくわからない。
民生委員の立場でも、ハート・ラインなのか介護保険なのか、どちらを勧めればいいのかわからない。
- ボランティアだよりを配るだけでは伝わらない。言葉で説明する場を設けるべき。
- FSC は、錦糸小学校で週2回活動している。14か国の子どもがいて、児童の半数が外国人。
日本語がわからない→授業についていけない→不登校→不良化という事態が起きている。
教諭の認識不足もある。インターナショナルスクールは予算不足で作れない。
- おもちゃサロンは、ボランティアが高齢化している。
利用者と交流し、担い手になってくれることを期待している。
- ボランティア育成について、ボランティアセンターのこれまでのやり方では通用しなくなっている。
- 障害者用の浴場を作ったが、10歳以上は男女混浴禁止の規定があり、家族と一緒に入れない。
- いままでデイサービスに任せていたことを、地域の方でできないかという思いがある。
- ボランティアフォーラムを、どうやって地域に反映させていくか、が課題。
来ている人（＝やる気がある人）で、さらに小さくてもいいので課題解決の場を持っていくのはどうか。
- 知らなかったことが多い。



このグループの課題

周知不足。
ボランティアの橋渡しができていない。
人材が不足している。
フォーラムが地域に反映されていない。



現状・課題

- ・ひとり暮らしの高齢者 健康的な食事がとれているか心配。
ひきこもっている人とコミュニケーションが取れない。
- ・町会とのつながり 町会とのかかわりが難しい。
- ・赤ちゃんについて 相談できる仲間がない。
- ・地域のつながり マンションの自治会ができたが、もともとの地域のことがわからない。
近所づきあいが希薄で、隣人のこともわからない。
- ・虐待について 認知症の母親をひどい言葉でなじる息子がいる。
子どもを怒鳴りつける母親がいる。
- ・災害対応 どこに避難したらいいかわからない。誰を誰が助けるのか、わからない。
夜間に災害があった時の想定ができない。
- ・コミュニティの力 多様性を受け入れることができるかどうか、が地域の力。



このグループの課題

新しいマンションの住民ともともとの地域の人々との関係づくり
災害時の地域の助けあいについて



解決策の話し合い

- ・マンションの住民の人たちと地域とのかかわり。
- ・町会・自治会と民生委員とがどうかかわっていけばいいのか。
- ・下町には下町のルールがある。
- ・民生委員とどう協働しているかわからない。
- ・民生委員は町会から選出（推薦）されている。
- ・活動はやってみると自分にもメリットがある。情報をもっと共有し、交流するといい。
- ・子どもの虐待についての相談先は子育て支援総合センター。
- ・災害時の対応について、マンションの場合、特に関係が希薄で難しいが、防災がきっかけでコミュニケーションが盛んになるかもしれない。

マンションの5階以上を避難場所にするといい、と言われているが、実際にオートロックなどで避難は難しい。マンションと町会でそのことを話し合うと、つながるきっかけになるのでは。



解決策

災害時・介護時のマップ作りが地域のつながりを作るための一歩になる。

グループ 11 ファシリテーター1 記録 1 参加者 7

現状・課題

- 高齢者のみ世帯、単身世帯が増えている。
- 町会等の非加入者への対応が難しい。
- 核となる人がいない。
- 集まれる場所がない。
- 想いのある人（ボランティア）と援助の必要な人をマッチングが難しい。
- ボランティアの次世代がない。



このグループの課題

援助が必要な人にどのように手を差し伸べるか。



解決策の話し合い

- 意識向上のために、子どもの頃からの教育が必要。
- 情報入手の格差をなくす取組みが必要。



現状・課題

- ・孤独死・孤立死がなくなる。(なくしたい)
- ・お年寄りと子供を近づけることで、解決できないか。
- ・学校選択制の導入で小学校が別々になり、地域の子供たちの遊びも別々になっている。
- ・地域の中で子供たちが分断されるのを防げないか。



このグループの課題

地域住民の世代を超えたつながりをつくりだす。



解決策の話し合い

- ・お年寄りと若い世代をつなぐ役目を果たすのは子どもたち。
- ・お年寄りのもつ知識をうまく引出す必要がある。(子育てや生活全般)
- ・子どもたちに地域に向けた発表の場を持たせる。
 - ①子どもたちに責任を持たせる ②できないこともできるようになる ③できるようになったら「ほめる」
- ・本来なら町会で設けるべき子ども会が「学校子ども会」(登校班など)になってしまっている。
- ・町会行事に参加しにくい状況になっている→みんなで取り組む必要がある。
- ・いつも同じ人(役員さん)でなく、いろんな人に参加してほしい。
- ・気軽に参加するためには→趣味をいかした発表の場など、長続きできるような工夫をする。
- ・お年寄り以外にも、障害を持つ人を受け入れる社会も考えたい。
- ・障害を持つ子どもとその親にとって、地域とのかかわりは今以上に必要。



解決策

地域住民と、地域に住むお年寄りや障害をもつ人との接点をこれまで以上に増やすため、子どもたちが地域で発表する場を町会子ども会が設け、子育て世代や趣味の活動をするグループも巻き込んで、息の長い活動として継続していく。

現状・課題

- ・新しい住人が地域に融合していない。若い世代と高齢の世代の交流も少ない。本所警察の跡地など、コミュニティの場を作ってはどうか。
- ・緑のサポーターは年配の人が多く。知識があるのにやめるのはもったいないので、若い世代が活躍の場を作って、引き留める必要がある。
- ・デイサービス利用者が自分より若いこともある。60代の認知症も増えていると感じる。
- ・若い世代には、挨拶ができない人もいる。入れ替わりも多い・墨田区に住んで20年になるが、当初は地域とのつながりが薄かった。掲示板でお知らせするだけでなく、直接声をかけてもらえると参加しやすいと感じたこともある。そのようなきっかけが必要。区の南部は集まれる場所が少なく、活動のネックになっている。



このグループの課題

新しい住民とのつながり作り
活動の場所



解決策の話し合い

- ・地域とつながろうとしても、地域の側（町会など）は敷居が高いイメージがある。きっかけが必要。
- ・新しい住民に声をかけようにも、全く知らない人と話すのは抵抗もある。共通の話題がないと難しい。
- ・地域に根差そうという気持ちがない人もいる。どう関係を作ればいいのか。
- ・あいさつ運動が有効では？→なかなか広がらない。
- ・挨拶だけで終わってしまう。その人が育ってきた環境や、世代間ギャップも大きい。
- ・やさしいまち運動を続けているので、子どもたちもいろいろ感じてくれている。
- ・活動の場は、小学校ではだめ？→小学校の利用は、PTA や町会でないと難しい。



解決策

おせっかいと思われるくらいな積極的な声かけ。
活動を続けること。

苦情が来ても受け止めて、続けていく。

1つの活動だけで解決しようとするのではなく、他の地域との交流などで、
情報量を増やしていくこともいい。

グループ 14 ファシリテーター1 記録 1 参加者 7

現状・課題

- 寺島図書館の閉鎖で集まれる場所がなくなり、いまはボランティアセンターの会議室を使っている。読書会の参加者も高齢化し、認知症の人もある。
- みまもり協力員は、玄関先までしか入れない。元気がない人は出てこられない。
- 孤独と孤立をどう防ぐかという問題がある。
- 見守りに回っても話をしてくれない人がいる。よその人に入ってほしくないという気持ちのようだ。
- ふれあいサロンを作ろうとしているが、前途多難。町会役員や婦人部がしっかりまとまらないと難しい。
- 逆に、町会活動が活発で、見守りもできているので、サロンの必要性がない。
しかし、将来的に活動が継続していくかどうかは不安。
- 町会が高齢者が半分以上。マンション住民は顔が見えにくいし、入れ替わりも頻繁。
- 高齢者のみまもりシステム、自分でボタンを押せないこともあるのでは。
- 必要な人ほど情報が届かない、という問題がある。



このグループの課題

ひきこもりの人をどうやって孤立させないようにするか。



現状・課題

- 高齢者のみまもりの問題。見守りとは何なのか。高齢者みまもり相談室の役割が周知されていない。
- 障害者も見守りが必要なのに、高齢者の陰に隠れている。障害者本人や、障害者の親が高齢化している。
- 孤独死が多く、空き家が増えている。
- 支える側（ボランティア、町会）が高齢化し、弱くなってきている。次世代につなげていく必要がある。
- 子育ての支援で自分に何ができるかわからない。
- 様々な活動者（福祉関係以外も）が話し合う場が必要。異世代が集まる場も。



このグループの課題

ボランティア、サポートする側の高齢化に対し、若い世代をいかに巻き込んで、活動を広げていくか。



解決策の話し合い

- 地域の課題を自分の課題として認識することがなかなかできない。
- ボランティアの講習会に来た人を、実際の活動に結び付ける仕組みが必要。
- ボランティアをやりたいなと思っても、どんなものがある、どんな活動をしているのかわかりにくい。



解決策

魅力的なグループ・サークルをつくる（になる）こと。
どんなグループ・サークルであるか紹介するため、いろんな団体が集まってお互いに知り合ったり、共通の課題について話し合ったりする場をつくる。

グループ・サークルの中で、講習の参加者などが体験できるようにしていく。

■パネル展示

会場では、今回感謝状を受けた皆さんの活動をパネルにして展示しました。

休憩時間などを利用し、各団体の活動の様子などのパネルを興味深く見られる方がたくさんいらっしゃいました。



■エンディング

墨田区社会福祉協議会深野紀幸事務局長から、「今、地域で問題を抱えている方がたくさんいる。なかなか自分から発信しないので、表面に出てこない場合もある。行政に任せとけばいいかという、そういった方々は行政から一番遠いところにいるし、行政は法律や条例があるので仕組み作りに時間がかかる。声なき声を一番聴けるのは地域の皆さんである。

地域の皆さんと専門家、関係者、民生委員、行政、社協等が集まって問題を解決することが今後最も必要となってくる。

これがプラットフォーム作りである。

さんあずサロンなどはこのプラットフォームの先駆けとなるものであり、社協も行政と一緒にこのプラットフォーム作りをすすめていきたいと考えている。

このフォーラムもその助けとなるような事例発表、研究会をしていきたい。」という話があり、閉会となりました。



■ その他

1 実行委員会の設置

地域福祉・ボランティアフォーラム企画・運営のため実行委員会を設置しました。

(1) 実行委員会の開催

第1回 実行委員会

日時：平成27年4月20日（水）10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：役員を選出について・フォーラムの内容について等

第2回 実行委員会

日時：平成27年5月8日（金）14時から

会場：すみだボランティアセンター

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの内容（案）について

第3回 実行委員会

日時：平成27年5月19日（火）10時から

会場：すみだボランティアセンター

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの詳細について

第4回 実行委員会

日時：平成27年6月4日（木）10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの詳細について

第5回 実行委員会

日時：平成27年6月30日（火）10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム当日の動きについて

(2) 実行委員

池田善久、石鍋光子、小川昭、鎌形由美子〔委員長〕、須藤正、中村智世子、中山賢治、野原健治、深野紀幸、布施英雄、古市吉弘〔副委員長〕、山田英、吉田政美（敬称略：五十音順）

2 広報

今回も、墨田区で広く活躍されているデザイナーの小川道和さんにご協力いただいて作成したチラシ20,000枚・ポスター100枚を、区施設、町会、区内社会福祉施設、区内高等学校・専修学校などに配布しました。

《その他のPR》

社協だより（6月号）、区のお知らせ（6月11日号）
ボランティアだより（6月1日号）、社会福祉協議会HP、
区HP、ケーブルテレビ、各種講座・説明会でチラシ配布、
区職員向けイントラネットにチラシ掲示



4 手話通訳・要約筆記・磁気ループ

手話通訳と要約筆記をお願いしました。



要約筆記者の皆さん



手話通訳者さんと要約筆記のスクリーン

今年度は新たに購入した磁気ループも設置しました。



5 平成27年アサヒグループホールディングス（株）との協治推進事業

今年度はアサヒグループホールディングス（株）様からご支援をいただき、協賛品として飲料をご提供いただきました。

